

「広報・県民運動専門委員会」 第5回会議 結果概要

1 日 時

平成28年9月8日（木）10:00～12:00

2 場 所

滋賀県庁北新館3階中会議室

3 出欠状況

委員18名中12名出席

出席：井口 貢委員長、佐竹 吉雄副委員長、井用 重喜委員、岡本 幹彦委員、
坂田 しのぶ委員、中塚 浩委員、廣瀬 香織委員、堀土 昌哉委員、
村田 和彦委員、森山 昭裕委員、山口 昌和委員、吉成 永部委員
欠席：今井 良治委員、歌代 泰和委員、奥山 光一委員、殿村 美樹委員、
中山 道雄委員、目黒 重幸委員 （順不同）

4 概 要

（1）議題

① 大会マスコットキャラクター選定に係る選定方針（案）について

事務局から資料1に基づき説明の後、以下のとおり発言、質疑応答があった。

<委員>

関連キャラクターの募集を一般に呼びかけられる際に、「関連キャラクター」という言い方で良いか。この資料での表記としては問題ないが、一般の方にとっては分かりづらいのではないかな。

<事務局>

ご指摘のとおり、募集に際しては「関連キャラクター」というのは何かを明確にしておく必要があると考える。

募集に関する取り決めについては、お示しした選定方針案でご決定いただいた後に、お諮りをさせていただき予定であり、そちらで改めてご意見を賜りたい。

<委員>

全国障害者スポーツ大会の関係で大会マスコットキャラクター（以下「大会マスコット」）を使用する場合、車いすに乗っているイラストがよく使われるので、着ぐるみも乗れるサイズの車いすを作るか、あるいは着ぐるみを車いすに合わせて作るなどの対応

をしていただけるとありがたい。

<事務局>

今後、大会マスコットを活用した広報を展開する中で検討したい。

<委員>

2の(5)にあるが、「キャプフィー」の認知度向上を図ることが主目的ではなく、国体・全国障害者スポーツ大会そのものの周知と滋賀県の魅力発信が軸だと考えているので、新たに設ける関連キャラクターも、滋賀にゆかりがあつて滋賀県そのものの発信にも活かせるキャラクターであるということ付記した方が良いのではないかと考えている。

<事務局>

この資料で記載しているのは、これまでにお示しをした複数の選定パターンの中からこの方針に決めた考え方を整理したものである。

ご指摘いただいた点については、これから募集をかけていく中で取り入れさせていただきたいと考えている。

<委員>

選定に向けた今後のスケジュールで、募集チラシやポスターを11月頃に配布する予定とあるが、一方でアイデア募集は10月中旬とある。募集を開始するまでに、告知することは考えているのか。

<事務局>

募集チラシ等については、これから作成作業に着手して調達できるまでの期間を考慮し、11月頃からの配布予定としている。ただ、募集自体はインターネット等で先行して行えるため、このようなスケジュールとさせていただいている。

募集を開始することの発信は、様々な媒体を使って多くの人に知っていただき、応募していただけるように努めてまいりたい。

一部、資料の記載内容で訂正をさせていただきたい。「関連キャラ」という表記があるが、「関連キャラクター」に統一させていただく。

<委員>

キャラクター然り、広報全般に言えるが、何のために作ってPRするのかをしっかりと考えていただきたい。

とある自治体の作っているキャラクターも一般の方にあまり浸透しておらず、ネーミングを公募しても反応がないような状況である。

「キャプフィー」も着ぐるみの稼働実績は一定あるが、その頻度がそのまま県民の認

知度には直結していないと思うので、作る過程においても何のためにやっているのかを良くふまえて進めていただきたい。

<事務局>

ご指摘のとおり、作ったは良いがあまり浸透しない、後に残らないということがないよう、効果的な広報PR、情報発信をしてまいりたい。

原案を一部語句の訂正を行ったうえで承認する旨、各委員から了解を得る。

決定した選定方針に基づき、作業を進める上で必要な事項について審議。

①-1 広報・県民運動専門委員会 部会設置要綱(案)およびマスコットキャラクター選定部会 部会委員候補(案)について

事務局から資料Aおよび資料Bに基づき説明の後、以下のとおり発言、質疑応答があった。

<委員>

設置要綱において、委員の構成に関する条項がないが。

<事務局>

部会委員は、専門委員会設置規程第5条第2項において、開催準備委員会会長が委嘱すると規定があり、設置要綱をこの委員会で承認いただいた後に、会長が委嘱することとなる。

部会委員の候補についても、この委員会に関連する部会であり、委員の皆さんにもご確認いただきたいという趣旨からお示しさせていただいた。

<委員>

確認だが、大会マスコットというのは「キャプフィー」のことを指し、関連キャラクターは大会マスコットではないのか。あるいは、関連キャラクターも含めて大会マスコットなのか。

<事務局>

関連キャラクターも、「キャプフィー」と併せて大会マスコットとして運用していくものと整理をしている。

<委員>

関連キャラクターの位置付けを明確にしておいた方が混乱がないと思う。

<事務局>

募集の際には、その点に十分配慮した上で実施させていただく。

「第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会開催準備委員会 広報・県民運動専門委員会 部会設置要綱（案）」が原案どおり承認された。

<委員>

部会長については、部会委員の委嘱後に委員長である私が指名し、委員の皆様へ報告させていただく。

①-2 マスコットキャラクターアイデア募集要項（案）

事務局から資料Cに基づき説明の後、以下のとおり発言、質疑応答があった。

<委員>

関連キャラクターの説明で「対になる」という表現は、対立しているものを連想しやすいので、「ともに大会を盛り上げる」というような表現に改めた方が良いのではないか。

<事務局>

応募者の発想の幅が狭まらないような文言に訂正させていただく。

<委員>

応募資格は、制限を設けず全国の方を対象にする一方で、1の第1パラグラフの「県民の皆さんが…」や、第2パラグラフの「広く県民の皆さんに…」という表現があるが、あえて入れる必要はあるのか。

<事務局>

第1パラグラフについては、大会開催基本方針から引用しているので、表記としてはこのとおりでお願いしたい。

一方、第2パラグラフについては必須ではないので、ここの文言は事務局で一度検討させていただきたい。

原案を委員の提案をもとに一部修正し、正副委員長と協議の上、各委員に確認いただく旨、各委員へ了解。

<委員>

今後、事務局から説明のあった選定スケジュールに則り選定作業を進めていくことと

なるが、事務局においては、各委員に対して部会での審査状況等、適時に情報提供をするようお願いしたい。

② 広報ポスターデザイン選考について

事務局から資料2に基づき、選考方法について説明の後、最優秀作品については、ポスターとして平成29年度に県内のスポーツ施設や各種学校等で掲示し、候補作品は県庁等でパネル展示を行う旨、説明。

委員による作品の寸評の後、次のとおり意見交換があった。

<委員>

デザインを学生に依頼、説明をされた際に、別のポスターを例として示されたりしたか。

<事務局>

例を示すと学生の発想の幅が狭まると考えたので、依頼・説明の際には他のポスターを見せたりはしていない。

<委員>

寄附金の目標額は設定されているのか。

<事務局>

寄附金の目標額については、開催準備委員会に設置している「募金・協賛推進特別委員会」でも議論があったが、目標額を定めるとそれが最低限と取られる可能性があることや、現時点で大会開催に要する経費の全体像が明確になっていない中では設定が難しいということから、目標額は定めていない。

ただし、企業・団体等に今後働きかけを行っていく上では、一定整理をする必要があると考えている。

<委員>

ポスターの掲出場所に関する説明があったが、寄附金の募集ということで、個人向けや企業・団体向けと色々あるかと思うが、企業の皆さんの目に触れる所にも掲出した方が良いと思う。

よく見ると意味が分かるデザインもあるので、じっくりとポスターを見てもらえる場所に掲出すべきだと考える。

また、駅などへの掲出は可能か。

<事務局>

寄附募集という今回のテーマから、企業や団体の皆さんにも見ていただけるような場所に掲出していきたい。

駅での掲出については、県とJR西日本が締結する包括連携協定の中で提案することは可能と思われるが、直近のイベント等のポスターが優先される等の事情もあり、現時点で8年後に開催する大会のポスターを掲出するのは難しいと思われる。

※候補作品6作品の中から、委員による投票の結果、作品番号【6】が、最も多くの票を集めた。その上で次のとおり意見交換があった。

<委員>

作品番号【6】の作品は、ピクトグラムを使った分かりやすいデザインだと感じた。

<委員>

こういったものを選考するときは、パッと見たときのインパクトでビジュアルが物を言っているようなデザインが強いと思う。【6】の作品は、募金の部分がやや慎ましやかだが、キャッチコピーが良いと思った。

<委員>

ユニバーサルデザインの観点で、色弱疑似フィルタを通して色味の確認をお願いしたい。

<事務局>

確認の上、必要があれば修正をさせていただく。

選考、審議の結果、最多得票を獲得した作品番号【6】の作品が最優秀作品として決定された。

以上